

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 3年 4月 1日

事業所名 特定非営利活動法人 笑心ちゃん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		規定の3倍近くのスペースで、リズム遊びや体を動かす活動も充分できている。	現在コロナ禍での活動なので密にならないように工夫していく
	2	職員の配置数は適切である	4		歩行や生活動作を行う上で支援できる体制にある	利用者が理解、行動しやすいよう工夫している。利用者の動きに合わせて指導員も同行している
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		歩行困難な利用者には必ず指導員が同行し転倒防止に努めている	室内はバリアフリーになっているが外には段差や砂利道を設けてあり不整地でも地面をとらえて歩ける事を目的としている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		午睡時は午後の活動をしている利用者と別室が確保できている	朝と帰りに清掃を行い、遊具やぬいぐるみ等の消毒を行なっている
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		利用者の発達状況など変化なども職員間で話す事で共通理解を図る	全員が集まれる時は行き、個人レベルでもフィードバックを行えるよう努力していく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		保護者向けのアンケートの結果を共有し、不備な部分は改善を目指すよう努力している	現在コロナ禍で難しいが、行事等や集まる機会があれば皆で会話ができる場を設けたい
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		ホームページにて公開している	ホームページにて公開している
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4	第三者委員会を検討している	外部評価は行っていないが、外部からの情報は積極的に業務改善に繋げられる体制はある。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		リモート研修ができる体制が整っている	個々のスキルアップを目指し努力していく
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		振り返りを行い課題や改善点を話し合っている。	少なくとも6ヶ月に1回のモニタリングを行い、保護者の意向や子どもの成長を共通理解しながら、的確な成長や支援に繋げたい
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		アセスメントツールの検討と、支援計画の確認を行う	標準化されたアセスメントツールについて学び、支援に活かしたい
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		多方面から見て、成長を促せるような計画のもと、支援を行なっている。	全員が支援計画にしっかりと目を通す必要がある
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		日々、工夫と挑戦を心掛けている。	今後も日々、工夫と挑戦に心掛けていく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		主になる職員を決め、相談しながら行っている。	今後も相談していきながらその都度行っていく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		日々気づいたことやふと感じた時に相談しながら工夫している。	曜日により利用者が異なる為、内容(手遊び、歌等)を変化させていく
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4		個別と集団と特性に合わせて支援を心掛けている	今後も個別と集団と特性に合わせて児童発達支援計画を作成していく	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		就業時間が異なるがホワイトボードの活用、口頭での報告連絡に努めている	支援開始前に確認することになっているが、共通認識できていない部分もある 口頭での連絡や情報共有ノートの活用を行う
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		就業時間が異なるがホワイトボードの活用、口頭での報告連絡に努めている	情報共有ノートを使い、職員間の理解を深める。送迎で参加できない職員もいるため、気付いた点等を情報共有ノートに記載をし、把握するように努める。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		利用者の連絡帳をチェックし情報共有し支援内容の確認を行っている	今後も情報共有し支援内容の確認を行っていく
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		6カ月ごとに見直しを行っている	定期的な見直しは行っていく
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		主に責任者が出席している	必用に応じ現場の詳しいものが参加していく
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		保護者から情報を頂き、必要時は他機関と面談等を行なっている。	今後も保護者と連携をとって情報共有をし、必要時は他機関と連携等をとる
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4		現在は保護者を通して、支援の共通理解をしている。	今後も保護者と連携をとって情報共有をし、必要時は他機関と連携等をとる
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4		必要に応じて保護者を通して連携している	今後も保護者と連携をとって情報共有をし、必要時は医師とも連携等をとっていく
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		必要に応じて支援内容などの情報共有を行っている	今後も必要に応じて対象児の様子を情報共有、交換をしていく 担当者会議に参加したり、担任と連携を取り合っていく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		必要に応じて支援内容などの情報共有を行っている	保護者と連携をとって情報共有をし、必要時は学校とも連携等をとる。 学校での担当者会議、送迎時の相談等
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4		主に責任者が参加している	子ども達に関わる研修についてはなるべく参加している。今後は全職員対象で、他機関とも連携し研助言や研修等に参加できるよう努めていく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4		現在コロナ禍で難しい	過去の実績としては事業所内で乗馬体験をしている。必要に応じ地域コミュニティの場として提供する体制はある 地域の協議会に必ず参加していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4		機会があれば参加するようにしている	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		送迎時には保護者とその日の出来事や成長、また疑問があれば話している	今後も連絡帳を活用したり、保護者の送迎時等でなるべく丁寧に対応していく
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4		主に責任者が対応し、状況に応じたアドバイスを行っている	個々の家庭状況があり求めている様子もある。研修案内や施設での本の貸し出しやCDの貸し出しを行なっている	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		見学・契約時に行っている	重要事項などを使って説明し、変更があった場合にはその都度再度説明を行なっていく	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		保護者からの同意を得ている	同意は得ているがモニタリングに協力的な姿勢を見せていただけよう日々の保護者への働きかけが必要である	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		送迎時・連絡帳・電話・メール等で相談助言を行っている	今後も必要な助言ができるような体制作りをしていく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4	保護者希望により保護者会はないが、個別に意見交換等を行っている	保護者の意見を聞いていきながら、必要であれば実施するのが良いと思う
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		その場で対応できることはすぐに対応している	今後も相談についてはその都度対応。保護者の都合で、迎え時間の延長等も継続していく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		個人情報に留意しながらLINE等で発信している	今後も保護者の同意を得ながらLINEを使って個々に写真等(活動)を送ったり、ホームページ等で必要に応じて発信していく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4		周知している	文章などの個人情報の処理は徹底していく
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		口頭以外でも伝達できる対応を行っている	個々の表情、言葉、動きを察知してあげる
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4		現在はコロナ禍で難しい	運動会、発表会に参加。農作業中の方々にお茶の差し入れを行い交流し合いコミュニティーの場としても提供している
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		緊急時対応マニュアルは保護者全員に配布し対応方法については周知できている。	子ども達の様子で、年に2回は行なっている。マニュアルについては見直しや補足等しながら保護者へ配布していく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		定期的に行っている	いつ起こるかかわからないため、訓練に参加できる体制を整える
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		フェイスシートや保護者と確認を取りながら情報を把握	事前に保護者と健康状態の確認を行っている。他の事項もしっかり把握していく
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		お弁当、おやつは持参している	おやつ、お弁当全て、家庭から持参。利用児の間に職員が入り、間隔をあけている
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		全員で共有できるようファイルしている	記載方法から研修を必要とする職員もいるので記載方法などを徹底していく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		日々の業務の中で場面に応じた対応や事例などを基に対応している	県主催の研修へ参加
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		現在まで拘束はしていない	他害や自傷傾向の幼児は今では利用していない。自傷他害のある子どもの利用は現在はない。必要になった場合はしかるべき対応を行う

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。